

戦争孤児を描き続けてきた静岡市の作家、西村滋さん。自宅近くの山里のいで湯、油山温泉で誕生日の四月七日前後に、毎年お祝いの会が開かれてきた。西村さんの自伝的物語「お菓子放浪記」に人生が変わるほどの衝撃を受け、十年前に舞台化を願った演劇ユニット主宰の女優、片山美穂さん(四八)。ミュージカルにして三年前から静岡や東京など各地で巡演したが、昨

## 追悼。お菓子放浪記

年の誕生会で「もう一回東京でやりたいんです」と、西村さんに願った。

九十一歳の西村さんは急激に衰弱していたが、自宅を再訪した片山さんは再演話に破顔した西村さんを忘れられない、という。その

約一カ月後に死去。追悼公演になってしまったミュージカル「お菓子放浪記」は今月十二日から五日間、東京・池袋で上演された。

甘いお菓子へのあこがれ

を支えに、戦中戦後の絶望の日々と戦い続けた孤児の物語。片山さんは「西村さんが応援団を連れて来てくれる」と話していたが、西村さんの強い思いが役者を突き動かしているような、力強い舞台だった。

一人の女優の「人生を変えた」思いが、客席に座った僕たちの心に植え付けた小さな平和の種。初夏の風にきつと芽吹く。

(静岡総局長・五十住和樹)